



箱根駅伝で総合3連覇に貢献した青山学院大学の黒田朝日(くろだ・あさひ)さん=1月2日

橋の向こう100メートル先にはロシア国境、古城の堅牢な城壁が見えた。年末、厳寒のエストニア国境の町ナルバを訪れた。バルト3国の一角で冷戦終結まではソ連に占領されていた。橋の名は「フレンドシップ橋」。片側1車線ながらも幅広くて頑強な橋の上には車両の通行を妨げるテトラポッド状の障壁、上部には有刺鉄線が張り巡らされている。

それでも屋根の付いた歩道はそのままで、日没後も多くの人たちがキャリーケースを引いて往来している。エストニアの国境警備当局によると、その数は1日平均1600人。約4年前にロシアがウクライナを本格侵攻する前、その数は約2万6千人だった。

ロシア語話者が9割を超え、ロシアパスポートの所持者も多いナルバでは、ロシア側に親類

のいる市民が少なくなく、欧州連合(EU)パスポートがあれば橋を行き来できる。

橋の取材をする直前の午後3時、ナルバに小型バスに到着、すぐに防空訓練のサイレンが鳴り響いた。

橋のたもとへの入国管理ビル前には長蛇の列。ロシア側から

渡ってきた老女に言葉をかけると、「ノー・イングリッシュ。それでも「タチアナ」と大きな声で自己紹介した後、知り合いの車に足早に乗り込んだ。

ナルバ市内に入る20分ほど前、同行のエストニア国防省当局者から注意された。「携帯電話は機内モードに切り替えて」。



風向計

漂流か反転か

ロシア当局のハッキングを回避するための措置だ。

「プーチンはロシアという社会システムがもたらした結果だ」。エストニア滞在中、幾度かこんな言葉を聞いた。

外国発の情報が管理される閉鎖的で排他的な情報空間、「特別軍事作戦」というウクライナ

侵入の虚偽のナラティブ(物語)が蔓延する市民社会、民主主義に不可欠な公開性と開放性のない国家体制…。

こんなロシアのシステム全体がプーチンという独裁者を産み落としたのだから、彼が失脚したり急逝したりしたところで、ロシアの攻撃性は変わらない

。そんな諦念と覚悟が「プーチンは今のロシアの原因ではなく結果」との言葉に凝縮されている。

ナルバを訪れる前、首都タリンから車で1時間半ほどの町タパにある軍事基地を訪れた。人口約130万人のエストニアはここに米英仏軍を駐留させ、ロシアの侵攻に備える。エストニアに常駐するNATO軍は約1万4千人、その軍勢と肩を並べながら小国の国軍がロシアを抑止する。

米国第一の「トランプ2.0」誕生から1年。ウクライナと欧州は公正かつ永続的な平和を構築できるのか。そのためにロシアペーシの戦局と和平交渉を反転させられるのか、それとも欧州と世界は漂流し続けるのか。2026年が正念場になる。(敬称略)

(共同通信編集委員 太田昌克)

04 特集 東京大学東洋文化研究所教授 松田康博

台湾有事は「信則無、不信則有」

ゲーム
チェンジの
行方

08 中カツ！通信 野村義樹

デフレ!?220円でおなかいっぱいのお出前サービスが人気

03 風向計
漂流か反転か

12 カニササアヤコのNEWS著休め
正月付度ミュージック

16 経済双眼鏡
最弱通貨の円
このまま英ポンドの運命か

09 水谷竹秀×リアルワールド
竹の塚は「中高年のオアシス」

13 口福の源 畑中三応子
牛にとって何より大切なもの

17 よんななエコノミー 菅沼栄一郎
新しい選挙制度が実現する?
「中選挙区連記制」が有力だが…

10 本郷和人 歴史の舞台をゆく
第66回
「上越地方の中心地」～その1

14 くらし2026
第二の人生は
「旅先で仕事」
目立つ50代以上シニア

18 HOT INFORMATION
19 今週の動き・ART探訪

表紙イラスト「初夢」 寝鞠(ねまり)

2003年大阪府生まれ。上月財団による第21回(24年度)「クリエイター育成事業」認定者。年越しの瞬間に、猫がこたつの中でキャットフードやネズミの夢を見ている。https://x.com/nemari_ar



本誌へのご意見、ご感想がございましたら、編集長の荒木正人までお寄せください。

araki.masato@kyodonews.jp
03(6252)6046

2027年に台湾有事が起る蓋然性は低い。世間では2021年3月にフィリップ・デービッドソン米インド太平洋軍前司令官が2027年に台湾有事が起こると「予言」したという誤解が広まっている。したがって、2027年には「デービッドソンの予言は外れた」という二重の誤解が広まるだろう。

ただし、それでも日本が防衛力の抜本的強化を図る必要性はある。台湾有事をめぐる言説は、まさに百花繚乱であり、概念整理が必要である。戦争を煽ることもなく、戦争の恐怖に屈服することもなく、理性的に台湾有事について議論をしてみたい。

その際のキーワードは「信則無、不信則有」である。

デービッドソンの「予言」への誤解

デービッドソン発言は、正確には「私は彼ら（中国）が長年やりたいと言ってきたように、20

ゲームチェンジの
行方

台湾有事は「信則無、不信則有」

東京大学東洋文化研究所教授 松田康博

まつだ・やすひろ 1965年生まれ。1997年慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。2003年博士（法学）学位取得。1992～2008年防衛庁（省）防衛研究所で助手・主任研究官。2008年東京大学東洋文化研究所准教授を経て2011年より現職。専攻は東アジア国際政治研究、中台関係論、日本の外交・安全保障政策。著書に『台湾における一党独裁体制の成立』、『中国と台湾 危機と均衡の政治学』（慶應義塾大学出版会）など。



心を強めていると憂慮している。私は彼らがその目標に近づきつつあることを憂慮している。台湾がその野心の目標の一つで

あることは間違いない。実際のところ、その脅威は今後10年、実際には今後6年で明らかに become と思う」である。

これには、中国の習近平（しじやうへい）国家主席が2027年までに武力を用いて台湾問題を「解決」のために準備するように指示を出したという情報を、アメリカが入手し、中国の軍拡や軍事訓練・演習のあり方などと併せて総合的な判断をしたことが反映されている。この発言以降、こうした情報と判断が日本を含めた同盟国にシェアされた。そして2022年2月のロシア・ウクライナ戦争の勃発が引き金となり、「台湾有事」の切迫性を感じる日本や台湾で防衛費の増大が政策決定者と国民を含めたコンセンサスとなったのである。

日本や台湾は敵の射程圏外から攻撃する「スタンド・オフ・ミサイル」を含めた反撃能力を強化しているし、台湾は陸海空の能力強化、統合化に加えて市街



『中国と台湾 危機と均衡の政治学』
松田康博著 慶應義塾大学出版会

軍を西太平洋の第1列島線と第2列島線の間に入れないための接近阻止・領域拒否（A2/AAD）能力の構築③台湾に對して「多次元・立体的着上陸」作戦を実施する能力の構築、の三つを目指している。

しかし、これらは順調に進んでいない。①核弾頭や弾道ミサイル増産の兆候はあるが、腐敗や情報漏洩が原因とされ、ロケット軍の指導者層は根こそぎ粛正されている。②西太平洋の第1列島線と第2列島線の間に空母打撃群が展開するようになったものの、逆に台湾、日本、アメリカの海空軍・海上・航空自衛隊などから挟み撃ちにされ、補給も断たれ、袋の鼠になる可能性さえある。③着上陸作戦の中核的戦力である強襲揚陸艦は、2025年時点で予定されている8

中国の戦争準備不足

他方中国はどうだろうか。中国は台湾を攻略するには①アメリカを介入させないだけの強大な核戦力の構築②米援する米

集中3隻しか配備されていない。そして④習近平は3期目の中間点を越えた2025年になっても、軍の高級幹部を大規模に粛正し続けており、それには台湾正面の東部戦区の幹部も多く含まれている。

すでに2030年以降に先送り？

そもそも2027年には、中国人民解放軍建軍100周年イベントや習近平の4選がかかる中

国共産党第21回全国代表大会が予定されている。こうした時に、北京は最高指導者とその部下を含めいっさいの失敗が許されない緊張感に包まれる。そんな時に習近平が、軍事的な準備もできていないのに、米中大戦争になりかねないイチャパチかの軍事行動を起こすだろうか。2028年には台湾の総統選挙およびアメリカの大統領選挙があり、4選したばかりで時間的余裕がある習近平には様子見る。心理が働くはずである。



2029年にはアメリカで新政権が始動するので、新政権が台湾海峡に介入するかどうかを見極める必要が出てくる。そう考えるとすでに習近平が統一攻勢をしかける最も早いタイミングは2030年以降になってもおかしくない。習近平は今後5年の時間をかけて、前述した

遅れ気味の軍事的準備を進め、粛正して空席となった幹部人事をやり直し、台湾への浸透工作や、人心を動揺させる認知戦も強化し、台湾の民進党を下野させようとするだろう。

独裁者が有している時間は長すぎるので、長期的に取り組むことができるといえば聞こえはいいが、言い換えるなら難しい課題はつい先送りしてしまいがちになるのである。

シナリオや机上演習は未来予測ではない

日本社会には、もう一つ深刻な誤解がある。それはアメリカのシンクタンクなどが発表するテール・トップ・エクササイズ（机上演習）や将来シナリオなどの結果が発表されると、それを未来予測だと勘違いする人がいることである。そして、「〇〇の台湾有事シナリオでは日本で〇〇人が死亡すると予測されています」という報道がなされ、戦争の

恐怖が煽られている。

これらは、「自分たちの弱点は何か」、「自分たちは何をすべきなのか」を明らかにし、「これから何をするか」を決めるための知的なツールに過ぎない。

したがって、さまざまな困難なケース、時には極端な条件を課すことで、自らの抱えている課題を明らかにすることが目的である。ものによっては、国防費の増大や、その配分を変えることを目的としているのではないかと思える場合さえある。

これらを未来予測だと勘違いすること、かえって無力感を感じて思考停止をしたり、どうせ甚大な被害が出るくらいなら投降したほうがよいというような敗北主義が出てきたりするリスクさえある。

実際に、中国の対台湾作戦のシナリオには、極端なケースではあるが、在日米軍基地・自衛隊基地への先制攻撃により、一時的にこの地域の米空軍・海軍を麻痺

させ、そこで稼いだ時間を使って台湾に降伏要求をつきつけるというものもあるが、その場合、緒戦において中国は弾道ミサイルで奇襲をかけることになる。その結果、この地域の日米の海上・航空戦力の大半は最初の段階で失われてしまう可能性が高い。

この説明をすると、「そこまで中国と日米の戦力差が開いているとは知らなかった。勝てないのであれば、中国が台湾を占領しても、日米は介入せず見送るしかないのではないか」と言い出す人が必ず出てくる。

中国の対台湾全面侵攻は今でも抑止されている

確かに、航空機は空中では強力だが地上で駐機している時が最も脆弱である。艦艇は外洋に出ているときは強力だが母港に係留されている時が最も脆弱である。両者とも基地にいる間に弾道ミサイルによる奇襲攻撃を受けたらひとたまりもない。し

たがって、中国に対台湾武力行使の戦略的兆候があれば、日米の海空アセットは分散・退避させなければならない。ところが、中国が日米を欺いて弾道ミサイルを用いた奇襲をするなら、それは、台湾を占領するための着上陸作戦の準備をしていないことを意味する（準備していればその兆候に基づき事前に分散させることになる）。

戦争目的が統一なのであれば、最終的に中国は、台湾を占領すれば勝利、占領できなければ、どれほど台湾を破壊しても、それは中国の敗北を意味する。つまり中国は、絶対に着上陸作戦を成功させなければならない。その時、もしも台湾と日本に（米海兵隊を含む）強力な防空能力と対艦攻撃能力を有した陸上兵力が、弾道ミサイル攻撃をかくいぐって生存していたらどうなるだろうか。

中国は、十分に準備できていない着上陸作戦を、大量の対艦

ミサイルの脅威、そしておそらく健在である日米台の潜水艦の脅威を乗り越えて敢行しなければならぬ。陸上兵力は陸上にあるときは強力であるが、海上で輸送されている時が最も脆弱で

ある。台湾の北部と南部を占領する部隊は、それぞれ上海と海南島あたりから出発し、台湾に接近するのに10時間以上かけなければならない。この作戦を中国は自信を持って進められるだろ



抗日戦争勝利80年記念行事で閱兵する中国の習近平国家主席（右）=2025年9月3日、北京

中国を「引き延ばす」に追い込む

多くの人が「戦争」を抽象的に考える、というよりもむしろ「戦争」について思考停止をしてしまふ。それは戦後の日本が戦争と平和について基礎的な知識の普及を回避し、重要な判断を一部の専門家と官僚、政治家に任せっきりしてきたためである。

今、戦争を起こす可能性があるのは日本でも台湾でもなく、中国である。その想定される戦場は冷戦期の北海道とは異なる。

り、台湾海峡はもちろんのこと、日本を含む東シナ海、南シナ海、西太平洋地域など、広範囲に及ぶ。もともとソフトな封鎖作戦においても、沖縄の先島諸島は一時的に占領される可能性がある。つまり、われわれはこの戦争は決して起こさせてはならないのである。

台湾有事とは、「信則無、不信則有」（信じれば則ち無く、信じざれば則ち有る）状況にある。つまり、戦争が起こると信じてそれに備えれば、起こりにくくなり、逆に戦争など起きないだろうと信じ込むと起こりにやすくなる。

したがって、戦いに備えることでこそ、戦いを避けやすくなる。まさに、「汝平和を欲さば戦への備えをせよ」という格言がびつたり当てはまるのが、今日の台湾海峡をめぐる戦争と平和の関係なのである。

未来を変えるのは習近平だけではない。われわれも未来を変えられるのである。



水谷竹秀 ×

リアルワールド

みずたに たけひで ノンフィクションライター。1975年生まれ。上智大学外国語学部卒。2011年、「日本を捨てた男たち」で第9回開高健ノンフィクション賞を受賞。10年超のフィリピン滞在歴をもとに「アジアと日本人」について、また事件を含めた現代の世相に関しても幅広く取材。

竹の塚は「中高年のオアシス」

そこは日本社会の縮図のような場所だった。東京都足立区竹の塚に立ち並ぶフィリピンパブのことである。界限には数十軒あるが、特に「カリン」と呼ばれていたそのパブは、中高年の日本人男性にとって憩いの場だった。アニーという名物ママがいるからで、彼女の店は今から10年前、NHKの人気番組「ドキュメント72時間」に取り上げられてからというもの、一躍有名になった。

そのアニーと久しぶりに連絡を取ろうと先日、LINE（ライン）のメッセージを送ったのだが、一向に既読にならない。店の電話も繋がない。心配していたところ、店を訪れた知人からこう伝えられた。

「アニーさんは1年ほど前に体調を壊してフィリピンに帰ったみたいです。向こうで静養して、元気になったら帰ってくるかもしれないとのことでした」



中高年の日本人男性たちにとってオアシスだったフィリピンパブ「カリン」=2016年、筆者撮影

「お客さんは一人も心が中心で、みなストレス解消していうか、寂しくなったらここに来る。そういう人たちが、だいたいみんな同じことを考えている。心の中は本当は寂しいんだけど、どこか威張っているんです。やっぱりプライドがあるから認めたくない。だから彼らにとってここはオアシスのような場所だと思っよう」

客の中には孤独死してしまっ人も数人いた。店にしばらく顔を見せないため、来店時に話していた勤め先などの情報を基に他の客に探してもらったところ、アパートでひっそり亡くなったというのだ。アニーは店のホステスたちを連れ、客の遺骨が納められた息子の家に行きつけて線香をあげた。

別の客が孤独死した際は、葬儀にも参列したという。

「だつてお世話になっているんだよ。お客さんとして来てくれて、わいわい騒いだ間柄なんだから行くのは当たり前よ」

アニーの故郷、フィリピンは家族を大切にすることが根強い。ゆえに孤独死が相次ぐ日本の現状について、こう考えていた。

「日本は近所付き合いがなさすぎるから孤独死するのかと。一人でいなくなるなんて私には考えられない。自分は嫌だな。やっぱり寂しいよ。フィリピンでは孤独死めったにない。だつて何日かいないだけで隣人が探してくれから」

もちろんフィリピンにも政治家の汚職や貧困など社会問題は山積みだから、フィリピンが「善」で日本が「悪」という単純な二項対立では分けられないだろう。故郷へ戻ったアニーは今頃、親族や隣人に囲まれて久しぶりの南国生活を満喫しているだろう。

中カツ! 通信

野村義樹（のむら・よしき）中華圏歴22年目。妻、娘2人と上海在住。現地のビジネスや生活をメルマガ「中カツ! 通信」にて配信中。

出前サービスが人気

上海にオープンした回転すしの「スシロー」が大行列となっている。ただ、これを単なる日本ブランドの人氣とみるのは早計だ。限られた予算で、どれだけ満足感を得られるか。いわゆる「コスパ」を中国の消費者がこれまで以上に厳しく見極めた結果、1皿10元（約220円）程度という価格帯のスシローが評価されているのだ。

中国経済は、不動産市場の低迷や若年層失業率の高止まりなどの影響もあり、消費者の財布のひもは固くなっているようだ。

こうした環境下で、飲食業界では驚くべき格安サービスが勢いを増している。出前マッチングプラットフォーム大手の美团（MEITUAN）が展開する格安出前サービス「拼好饭」である。

上海では、牛丼チェーンの「すき家」の牛丼の並盛が19元（約400円）するのに対し、「拼好饭」では10元前後（約220円）で丼物やハンバーガーセットが配送料込みで届く。



出前プラットフォームで注文した「湯葉と肉炒め&ポテト千切り炒めのW盛り丼」。値段は9.9元（約220円）=2025年12月9日、上海市、筆者撮影

以下で貰える。私は、かつて日本で行われたマクドナルドのハンバーガー60円キャンペーンを思い出した。

ただし、中国の「拼好饭」は、単なる集客目的の赤字覚悟の価格破壊でもない。もちろん社会主義の慈善事業でもない。背景にあるのは、供給過多と競争激化が極限まで進んだ特殊な市場構造だ。都市部には飲食店が溢れ、配達ドライバーが溢れ、プラットフォーム同士も激しく競争してきた。

需要より供給が多い世界では、各プレイヤーが価格を下げなければ生き残れない。

飲食店は「拼好饭」向けにメニューを一部に絞り、回転率を最大化して調理コ

スト単価を下げ、特価メニューをつくる。大手飲食チェーンは、セントラルキッチン加工で生じる原材料の余剰部位を使ったメニューなどで原価を極限まで下げ、薄利多売を行う。

ドライバーは1件あたりの配送単価こそ低いが、同一エリアで複数件を同時配送することで、時間当たりの収入を確保する。

プラットフォームである美团も、手数料率は低いものの、新規顧客を増やし、他サービスへの販売機会を得る。

誰も大きく儲けることはないが、誰か1人が損を被り続ける構造でもない。この薄氷を踏むようなバランスが、「拼好飯」の格安を支えている。

このモデルは、高密度な人口・飲食店・ドライバー、そしてそれらをリアルタイムで最適化する膨大なデータとアルゴリズムがなければ成り立たず、他国ではまず再現不可能だ。

資本主義ではない国で生まれ、ガラパゴス化したこのサービスは、料理人の腕やドライバーの腕以上に、市場の見えざる手に支えられている。

本郷和人

歴史の舞台をゆく



ほんごう・かずと 1960年東京都生まれ。東京大学史料編纂所教授。東京大学・同大学院で石井進氏・五味文彦氏に師事し日本中世史を学ぶ。2012年のNHK大河ドラマ「平清盛」のほか、アニメ、漫画の時代考証にも携わっている。

第66回 「上越地方の中心地」～その1

上越市は、新潟県南西部、上越地方に位置する市です。「施行時特例市」に指定されています。新潟県内では新潟市、長岡市に次いで第3位の人口（2025年12月1日時点で推計人口17万8117人）を擁しています。

日本三大夜校の一つ、高田城址公園の桜や、高田城の城下町の総延長16キロもの雁木通りの町並みなどで知られています。高田市と直江津市が合併し、1971（昭和46）年に市制が施行されました。

先ほど書いた「施行時特例市」というのは耳慣れない名称です。良い機会なので、大都市の制度について、簡単に説明いたしましょう。

特例市とは、日本の地方公共団体のうち「法定人口が20万人以上」の要件を満たし、地方自治法が定める、政令による特別指定を受けた市のことです。都道府県の事務権限の一部を移譲する大都市制度の一つ

で、2015（平成27）年に制度としては廃止され、廃止時に特例市だった市のうち、中核市などに移行しなかった市が「施行時特例市」と呼ばれます。

2021（令和3）年4月1日現在、全国で23の市が「施行時特例市」に指定されている、推計人口が最も多いのが埼玉県の所沢市。この市と茨城県のつくば市などは中核市への移行を目指しています。また、最も人口が少ないのが上越市になります。



特例市の指定は、関係市からの申し出に基づき、市議会および都道府県議会の議決を経て、政令でなされました。ひとたび指定されると、人口が減少して20万人未満になったとしても指定は解除されません。また法定人口が30万人以上になった場合でも自動的に中核市に昇格するわけではありません。特例市と中核市との区別をなく



直江津町の駅前通り＝1949（昭和24）年3月

改正法施行後5年間に限り、人口が20万人未満になったとしても中核市に移行できるものとされています。この中核市への移行についての人口特例は、期限が延長されずに2020（令和2）年に終了しています。ですから、上越市の場合、2020年の人口が約19万人ですので、仮に中核都市への移行を目指したとしても、その願いは叶えられない、ということ

です。頸城平野の内陸の城下町である高田と、沿岸の港町である直江津は、古くから相互補完の関係を築いてきました。1954（昭和29）年、両者は「近き将来において高田市と直江津市を合併して上越中心都市を建設すること」を記した申し合わせ書を交換しました。その後、市街地拡大による連携が進み、1971（昭和46）年4月、新潟県議会の可決を経て、両市は対等合併し、ここに上越市が誕生しました。合併前時点での両市の人口は、高田市が約7万5千人、直江津市が約4万5千人になります。

その後、2005（平成17）年1月1日付で周辺13町村を編入合併し、佐渡市（佐渡島の全域）を超えて県内では村上市に次ぐ第2位の広さになりました。複数の町が合併するときには、必ず名称が問題になります。メンツがあつて、どちらも引けない。結局、地名に基づかない新しい名称を作成する。そのために、たとえば静岡県では「伊豆の国市」（韮山のあたり）と「伊豆市」（修善寺のあたり）が並存する、私には違和感がある状況が生まれてしまっているわけです。でも、港や鉄道での交通の要衝だった直江津市と、県の出先機関・高等教育機関などがある地域の中心地だった高田市との合併となる、たしかにどちらも譲れないでしょう。それで折衷案として「上越地方の中心地」という意味での上越市で妥協したそうです。

こうふくの源 食



食文化研究家
 米中三郎子
 はたなか・みおこ 専門は
 近現代の流行食。料理本の
 編集も。著書に「ファッショ
 ンフード、あります。」(ちくま
 文庫)など。

牛にとって何より大切なもの
 昨年11月、乳文化の愛好者が集う「ミルク1万の会」主催の「ブラミルク@高知」に参加し、山地酪農の牧場と老舗の乳業会社を巡った。
 日本の酪農は輸入の配合飼料を食べさせ牛舎で飼うのが主流だが、山地酪農は山で牛を放し飼いにする。斜面に在来種のノシバや野草などが生える草地をつくり、牛は365日昼夜とも山で暮らして草を食べ、搾乳時だけ牛舎に来る。
 牛の糞尿は土に還って草の栄養になり、草地が土砂崩れを防止する。日本の風土に深く根ざした循環型・環境保全型の酪農だ。戦後まもなく植物生態学者の猶原恭爾氏が提唱し、共鳴した岡崎正英氏が高知市街から約4キロ北にある中山間地で最初の牧場を始めた。
 昭和30年代に注目を集めて全国に広が



ボソンと1頭で草を食べる雪ヶ峰牧場のジャージー牛

ったが、1〜2頭につき1ヘクタールと広い面積を要し、まとまった土地取得が困難なこと、牛の運動量が多いため乳量が少ないことなどから下火になった。だが輸入飼料や燃料、電気代の高騰などで酪農家の廃業が急増する現在、飼料自給の観点と環境や動物福祉への配慮から再び脚光を浴びている。
 発祥の地である高知県では3カ所の牧場が、それぞれ特徴あるやり方で「山地酪農」を続ける。香美市土佐山田町の「雪ヶ峰牧場」では、東京ドーム25個分の放牧地にわずか100頭前後のジャージー牛がのんびり草を食む。体は小さいが、乳は乳脂肪分が高く濃厚。牧場長で獣医師の野村泰弘さんによると、牛舎飼いに多い乳房炎

は、南国市の「斎藤牧場」は、こんな斜面を牛が登るのかと驚くほど急峻な山地の牧場だ。放牧するのは一般的な乳牛のホルスタイン種だが、そうは思えないほど乳房が小さめで全身たくましい。おやつに名産のタケノコやカブの残渣、地元酒造の酒粕やビール粕、小麦の皮や米ぬかを食べる。乳のおいしさと地域産物を循環利用していることが評価され、2025年の農林水産省フードソフトセレクション「みどりの食料システム戦略の推進に寄与する農林水産物・加工食品等の産品」部門で最優秀賞を受賞した。
 「山地酪農のパイオニア、岡崎

氏は著作を読んだ感動し、50年前に21歳で移住して牧場を引き継いだのが「ディアランドファーム岡崎牧場」の鹿嶋利三郎さんだ。今は自由に歩き回れる牛舎で飼ひ、1日2時間だけ放牧する。ソフトクリームやスイーツを販売するショップが人気の観光スポットとなり、「山地酪農」を知る場としても機能している。
 乳を手間のかかる低温殺菌で製品化するのが「ひまわり乳業」だ。小型ミルクロリーで牧場をこまめに回って搾りたての生乳を集め、酪農家ごとの個性を表現したパックに詰めて販売している。創業から103年、品質にこだわり「健康・自然・地域」をキーワードにしたものづくりに努める企業に支えられ、高知の「山地酪農」は今日も元



ひまわり乳業の生産者の顔が見える、個性豊かな牛乳たち

氏の著作を読んだ感動し、50年前に21歳で移住して牧場を引き継いだのが「ディアランドファーム岡崎牧場」の鹿嶋利三郎さんだ。今は自由に歩き回れる牛舎で飼ひ、1日2時間だけ放牧する。ソフトクリームやスイーツを販売するショップが人気の観光スポットとなり、「山地酪農」を知る場としても機能している。

カニササレアヤコの

NEWS

箸休め



かにさされ・あやこ お笑い芸人・ロボットエンジニア。1994年神奈川県出身。早稲田大学文化構想学部卒業。人型ロボット「Pepper (ペッパー)」のアプリ開発などに携わる一方で、日本の伝統音楽「雅楽」を演奏し雅楽器の笙(しょう)を使ったネタで芸人として活動している。「R-1 ぐらんぷり 2018」決勝、「笑点 特大号」などの番組に出演。2022年東京藝術大学邦楽科に進学。

正月付度ミュージック

お正月は、雅楽に触れる機会の最も多い期間。初詣でどこからか「プエ〜」「ミヤア〜」と聴こえてくるやつだ。

「雅楽って神社のやつでしょ?」とよく聞かれるが、もともと仏教とともに大陸から日本に伝来したルーツがあり、お寺でもさかんに演奏される。752年の東大寺大仏開眼供養会ではきらびやかな舞や演奏が華々しく奉納され、中国や朝鮮、インド、ベトナムなど多国籍な人や文化が集まる一大イベントだったようだ。しかし現代の人が雅楽を楽しむ、



東京藝大で演奏する筆者と学友

となるとなかなか難しい。テンポは遅いし、曲は長いし、そもそも聴衆に自身の人間を想定していないような感じだ。雅楽ってどうなってるのかわからないと顔をしかめられることが多いので、ここで少し鑑賞のポイントをお伝えしたい。
 初詣で一番よく聞くのが「越天楽」という曲。1曲10分ほどで、単純な4拍子の曲なのでわかりやすい。はずなのだが、やっかいなのがこのリズム。好き勝手に伸び縮みしてしまう。いち、に、い、さん、しい、い、い、い、に、という有様で、拍(はく)有るのに拍無いじゃん、みたいなことになるのだが、雅楽人としては普通に拍を取っているつもりなのである。このリズム感が、雅楽が楽譜に表しきれず今も口伝で伝えられている理由の一つだろう。指揮者もいないのにこの自在なリズムをみんなが揃えて演奏できているのは、全員が曲を歌い習って雅楽独特の空気感を体に刻んでいるからなのだ。
 拍を取るポイントの一つは、打楽器を聞くこと。太鼓の大きな「ドーン」という音がしたら1拍目、と思

え少しわかりやすい(打楽器に聞しても「絶妙に少しだけずらす」などしているのだがこれを文字に起こそうとすると大変厄介なのでここでは割愛)。
 また、曲の後半になるとテンポが上がり、リズムの伸び縮みが少なくなるのでわかりやすい。ちなみに曲のテンポについても特に決まりがあるわけではなく、「日本の景気が良いときは速くなる」という噂を耳にしたことがあるが真偽のほどは不明。
 管楽器にばかり耳が集中してしまいが、実は絃楽器も活躍している。琵琶が1拍目に「ベン」と力強く入り、箏(こ)がそれに続いて「ポロン」とアルペジオを刻む。管・絃・打楽器、全てが密接に関わりあい、お互いを聴きながら進めていく、究極の全方位付度ミュージックが雅楽である。
 おわかりいただけただろうか? たぶんわからないと思う。何しろ千数百年にわたって歴史を重ねてきた音楽だ。私だって今でもわからない。それでも今年は少し耳をそばだてて、雅楽の不思議な世界を味わってみては。

まっさらな自分で

昨年10月、兵庫県丹波篠山市の古い町並みが続く商店街。溝口弘

に来たのは10月初め。8月は和歌山県高野町の宿坊で働いた。

定年まで数年を残し、「体が動くうちに好きな旅をしたい」と2

くらし 2026

第二の人生は 「旅先で仕事、 目立つ50代以上シニア

「新しい自分を試したい」。さまざまな場所で旅気分を味わいながら期間限定で働く、そんな中高年の姿が目立ってきた。数日の滞在と違い、生活者目線で地域を知ることができるほか、給与を旅行費用などに充てられるのも魅力だ。長年取り組んだ仕事とは違う分野で、自分を試してみたいという人も。年金だけで旅行ざんまいとはいかないシニア世代から注目されそう。

子さん(58)が黒枝豆販売の店舗で、こやかに接客していた。

福岡県宗像市に住む溝口さんが約1カ月の予定で丹波篠山市

024年に40年近く勤めた会社を退職した。一時体調を崩したことまきっかけになった。もともと旅行好きで、写真は教室で教えるほ



黒枝豆の販売をする溝口弘子さん=2025年10月、兵庫県丹波篠山市

ど腕前。夫はすでに定年退職しており、息子は社会人になっている。そんな時、短期アルバイトと地域事業者のマッチングを手がける「おてつたび」(東京)を知り、日本中を回りたいと、申し込んだ。会社では管理職だった溝口さん。今まで経験したことを役に立てたい。まっさらな自分ですべてできるか試してみたい」という気持ちもあった。商店街の人から町のことを教えてもらったり、休みには自分だけの撮影スポットを見つけては写真撮ったりといった充実した毎日だ。「不安はあったが、一緒に働く若い人たちのフラットな関係も含めすべてが新鮮。旅行で2、3日いるのとは全く違う、その町をより深く知る楽しさがある」と溝口さん。

事業者にもメリット

「おてつたび」を通じて溝口さんを雇用した丹波黒豆の生産・販売を手がけるAGRI STREET(丹波篠山市)の大坂宇津実社長は「他の若いスタッフとすぐ仲良くなって、アドバイスもくれ、テキパキと仕事してくれた」と高く評価する。

「おてつたび」が広く知られるようになったのに伴い、昨年あたりからは50代以上のシニア層の応募が明らかに増えたという。「人手が必要な時にすぐ人を集められるのがメリット。特にシニアはお金を稼げた

というだけでなく、経験や出会い、交流などを求めている人が多いので、事業者側も一緒にその雰囲気を楽しめる」と大坂社長。

長く働いた運送会社を定年退職し、京都市の旅館で約3週間アルバイトをしたのは山口県山陽小野田市の永田一成さん(61)。

求職活動をしていた時、テレビで知った「おてつたび」に「面白そう」と興味を持った。「全く経験したことのない仕事してみたい」と登録した。初めての場所、職場で配膳や食器の片付け、布団敷き

など慣れない仕事ばかりだったが、「客のためにここまで考えているのか」とおもてなし精神に驚かされた。「おてつたび」の福岡里菜代表は「とても魅力があるのに、『どこそこ』と言われてしまう地域に、誰もが気軽に飛び込める仕組みを作ったかった。『おてつたび』後も良さを発信してくれん」と思いを語る。「50代以上の利用は今や4人に1人。引き出しの多い素敵な人が多い」

こうした働き方を選ぶ中高年

世代は増え続けている。観光地に特化した人材紹介を手がけるダイブ(東京)では、12年に13人だった50歳以上の就業者数が25年に970人まで急激に伸びた。

広報担当者によると、男性では会社を早期退職

や定年退職した人、女性では子どもが自立した人が目立つ。「いろいろなことにチャレンジしたいというアクティブな人が多い。かつてのシニアより体力面も向上し、働き方が多様化したことも背景にあるのでは」と見る。

しっかり稼ぐ派も

効率よくお金をためようと、光熱費や食費などの負担がほとんどないホテルなどの住み込みの仕事を選ぶシニアもいる。

和歌山県那智勝浦町のホテルで調理補助をする中上順司さん(58)の本業は同県田辺市での備長炭製造販売。温暖化の影響で材料のウバメガシが虫食いの被害に遭うようになり、同様の木材があるネパール進出の資金確保のために働き始めた。

期間は2カ月。レストランでの調理など週5日フルタイムでの仕

事だが、時給も1500円と高い。「稼いだ分をそのままためられるのが大きい」と話す。

一方で、年齢が高いと体力的な問題も起きる。中上さんは「仕事内容や時間を十分確認して仕事を選んだ方がいい」と同世代に向けてアドバイスする。

航空・旅行アナリストの鳥海高太朗さんは「おてつたび」やリゾートバイトへのシニアの進出について、「ネットを通じて気軽に申し込めるようになったことに加え、観光地も人手不足で、シニアを受け入れる間口が広がっている」と分析。「今のシニアは元気で体力もあり、社会経験もあるので即戦力になりやすい」とした上で、「多様化の一つの表れで、元氣なアクティブシニアの過ごし方の一つとして、今後増えていくのではないかと見ている。」

(共同通信記者 尾原佐和子)



ホテルで調理補助の仕事をの中上順司さん=2025年11月、和歌山県那智勝浦町

最弱通貨の円

このまま英ポンドの運命か

日銀の利上げで円安が速のくかと思っていたが1ドル1160円に接近している(2025年12月23日時点)。通貨当局も安閑としてはいられないだろう。

筆者の関心は在欧時代に出張でよく利用したスイスフランだ。国際的に安全資産との定評があり、25年後半に1フラン1190円台を突破し、200円台乗せをうかがっている。当時は70円台だったため3倍近くまで上昇し

ている。対ドル円相場も70円台だった。スイスフランの格段の強さが分かるだろう。こうした為替変動のさやを抜いて儲けるのがいわゆるFX(外国為替証拠金取引)だ。この投資経験はないが、筆者は為替でいい思いをしたことがない。

30年以上前のロンドン勤務では400万円をポンドに両替して赴任した。当時は240円台。帰国時は約160円だったから140万円程度の赤字だった。

国際交流担当だった10年前の大学教員時代も為替で苦しめられた。春休みの短期留学で学生を北米の大学へ送り出していたが、円安によって学生の支払い(負担)増になったからだ。

©Getty Images

中央銀行の中の中央銀行とも呼ばれるスイスの国際決済

経済双眼鏡

銀行(BIS)は「存じだろう。第1次世界大戦後にドイツに課した賠償金の取り立てのため1930年に設立された。第2次世界大戦後は、「国際協力により財政・金融の安定を促進する」(BIS)組織に衣替えした。

そのBISが公表している主要国の通貨価値をはじき出した「実質実効為替レート」がある。2020年を基準(100)とすると円は25年11月時点で69・4。主要27カ国・地域の中で最も低い。ちなみにドルは109・0。遡ると日本が最強通貨だったのは1995年4月の193・9でこの時点から現在は6割強も下落している。

なぜ円は転落したのか。河浪武史著『円ドル戦争40年秘史』は、低金利政策が赤字体質の国家財政を持続させ、そのツケが円安となって「安いニッポン」を形づくった、と指摘している。最近の春闘で

日本の労働者の平均年収が韓国、台湾より少なく、世界で20位台に甘んじていることが話題になったのは覚えていないことだろう。

国内に比べると、この弊害を感じにくい。麻生太郎首相(当時)が2009年に「自国の通貨が高くなって破産した国はない。安くたってほぼ破産という国はいっぱいある」と国会で答弁したことがある。代表格が戦前世界の七つの海を支配した英国。変動相場制へ移行する以前は1ポンド1100円だった。最近では200円台と5分の1だ。

冒頭に触れたドルも他通貨との比較でドル安が進行している。最近の米ニューヨーク5番街はインバウンドならぬ、欧州などからの買い物客で歩けないほど混雑しているとか。それはともかく、日本も老犬英国の道を辿るのか。

(茨城大学名誉教授

古賀純一郎)

今年の政局で一つの焦点になりそうなのが、約30年ぶりに新しい選挙制度が実現するかどうかだ。有力なのは「中選挙区連記制」だ。戦後ずっと続いてきた「中選挙区制」に戻るのか? いや「連記制」にポイントがある。

1994年まで50年近く続いた中選挙区制は、定数が原則3〜5で投票する候補者は1人だけの「単記制」だった。2人も3人も投票できる連記制になったら選挙は一段と面白くなるかもしれない。

自分の支持する候補者以外にも投票できるなら、別の政党の候補者も書いてみたいし、せっかく多党化の時代だから、連立の組み合わせを仕掛けてもいい。

昨年末に閉幕した臨時国会では、審議入りしなかった「定数削減法案」をめぐる混乱の一方で、与野党の各会派の約200人の議員が参加する衆院選挙制度改革を目指す超党派議員連盟(議連)が12月5日に総会を開いた。

自民党の古川禎久氏(共同代表)と立憲民主党の階猛氏(同)らは

よんななエコノミー

新しい選挙制度が実現する?
「中選挙区連記制」が有力だが…

議連の福島伸亨幹事長は、「大まかに言って(各党会派の提案は)中選挙区連記制、都道府県比例代表制、ブロック別比例代表制の三つに分けられます。自民も日本維新の会も中選挙区連記制を議



選挙制度の在り方を検討する与野党協議会=2025年12月17日、国会

論していると表明があった」として、今春にも合意できるとの見通しを示した。

もちろん、簡単ではない。12月17日に開かれた衆院議長の下に設置された選挙制度の在り方を検討する与野党協議会では、自民党の委員は「議員の6割が現行制度の積極的な変更を求めなかった」とし、立憲の委員も具体的な提案をしなかった。

選挙制度改革に積極的な議員が集まる「議員連盟」と、自分たちが当選した選挙の仕組みにこだわ

りがちな議員には、改革の「熱量」の差がある。

ただ、今回は「改革熱量が低い」と言われる自民や立憲民主にも、改革推進論者が少なからず存在する。石破茂前首相も中選挙区連記制に賛同する。

実は、日本の選挙制度は、これまで「連記制」を2回経験した。終戦直後の1946年には「大選挙区制限連記制」を導入。定数2〜14の選挙区のうち、「定数10以下は2人、11以上は3人連記」とした。選挙権が「25歳以上の男子」から「20歳以上の男女」に大幅に拡大された初めての選挙で、女性が一気に39人(定数466)も当選した。

今回は、高市早苗政権の支持率が高いため、2026年度予算案が成立する春以降は衆院解散の可能性も出てくる。現状の小選挙区比例代表並立制を前提に選挙準備が動き出しているが、中選挙区連記制をめぐる議論も1〜3月にピークを迎えそうだ。

(ジャーナリスト・菅沼栄一郎)

7 DAYS SCHEDULE (1.12 → 1.18)

今週の動き

国内

- 1月12日(月)
 - 県庁所在地市長選=前橋(群馬)
 - 千葉県浦安市が東京ディズニーランドで成人式「二十歳の集い」
 - 白川郷ライトアップイベント(岐阜県白川村、18、25日)
- 1月13日(火)
 - 2025年11月の国際収支(財務省)
 - 25年12月の景気ウォッチャー調査(内閣府)
 - 25年と同年12月の企業倒産件数(東京商工リサーチ)
- 1月14日(水)
 - 芥川賞・直木賞選考会(東京都中央区・料亭「新喜楽」)
- 1月15日(木)
 - 25年12月の企業物価指数(日銀)
 - 国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから6年
- 1月16日(金)
 - 阪神淡路大震災1・17のつどい(～17日、神戸市・東遊園地)
 - スズキが自社初の電気自動車「eビターラ」発売

- 1月17日(土)
 - 阪神淡路大震災から31年
 - 大学入学共通テスト(～18日)
- 1月18日(日)
 - ミラノ・コレティナ冬季五輪日本選手団壮行会(千葉県船橋市・ららアリーナ東京ベイ)

国際

- 1月13日(火)
 - 25年12月の米消費者物価指数(ワシントン)
- 1月14日(水)
 - 25年7～9月期の米経常収支(ワシントン)
 - 25年12月の米卸売物価指数(ワシントン)
 - パリのルーブル美術館が、欧州連合(EU)加盟国にノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタインを加えた欧州経済地域(EEA)以外からの訪問客の入館料を45%引き上げ
- 1月15日(木)
 - 25年12月の米小売売上高(ワシントン)
- 1月16日(金)
 - アジアインフラ投資銀行(AIIB)総裁に中国の元財政次官の鄭加怡氏が就任(北京)
- 1月18日(日)
 - ポルトガル大統領選



ART 探訪

シリーズ展 仏教の思想と文化—インドから日本へ— 特集展示: ギリシア・ローマ文化と仏教

会場: 龍谷大学 龍谷ミュージアム
京都市下京区堀川通正面下る
[西本願寺前]

会期: ～2月15日
開館時間: 午前10時～午後5時
(入場は閉館の30分前まで)

休館日: 月曜日(ただし1月12日は開館)、
1月13日(火)

料金: 一般700円、65歳以上600円、大学生500円
高校生400円、中学生以下無料



仏伝浮彫「三迦葉の帰仏」 ガンダーラ 2～3世紀 龍谷大学

現在のパキスタン北西部を中心とするガンダーラ地域には、ギリシアやローマ、そしてペルシアといった西方の文化が絶えずもたらされた。この地域の仏教も強くその影響を受け、仏教美術の中にも西方の神々の姿を見ることができる。紀元前2世紀～紀元後5世紀ごろのガンダーラや中央アジアに認められる西方の要素を取り上げ、当時の仏教を発展させた多様な文化的土壌を紹介する。

HOT INFORMATION

共同通信PRワイヤー(<https://kyodonewsprwire.jp/>)が配信したプレスリリースの商品を中心に紹介しています

◆尼崎市、市制110周年迎える PR大使に元AKB48福留光帆さん起用

兵庫県尼崎市は今年、市制110周年を迎えることから、10月10日に日鉄鋼板SGLスタジアム尼崎で来場者参加型のコンテンツを盛り込んだ記念式典を開催する。

市制110周年PR大使を、タレントで元AKB48のメンバー、福留光帆さんに委嘱する。

福留さんを選定した理由について尼崎市は「本市出身の著名人で、人気、知名度が高く、市制110周年で意識する『この10年』での活躍が著しいこと、加えて、さまざまな機会に尼崎市に関するポジティブな情報発信に取り組んでいることなどを踏まえた」と説明している。

福留さんは大使として、自身のSNSなどを活用したPRや市内で行われるイベントに出席する。委嘱状交付式は1月24日に行う。

また、110年の市の歩みを振り返るパネルを作成し、公開する予定だという。

つながりつなげる
うごきだす



◆2025年は家を守る「まもりフォーム」が増加 エディオン、リフォームトレンド調査

家電量販大手エディオン(大阪市)はこのほど、2021～25年に家をリフォームした4700人を対象に実施した「第1回全国リフォームトレンド調査」の結果を発表した。

それによると、25年はリフォームした理由として、定番の設備の老朽化・故障以外に、快適性や光熱費抑制などを挙げる人も目立ち、「気候変動や災害、物価高から家族・家計を守るため」の「まもりフォーム」ともいべき傾向が出始めている、という。

25年のリフォーム理由(回答者1165人)で最も多かったのは「設備が古くなったり、故障したりしたため」(68.2%)で、次いで「暑さ・寒さ・湿気など、住まいの快適性を高めるため」(21.2%)、「節電・省エネにより光熱費を抑えるため」(13.8%)などが挙がった。

21～24年の各年いずれもリフォーム理由の1位は「設備が古くなったり、故障したりしたため」だった。一方、「住まいの快適性を高めるため」を挙げる回答は21年以降、増加傾向にあり、近年の気象の変化が影響している、と分析している。

25年にリフォームした場所で最も多かったのは「トイレ」で40.5%を占めた。次に多かったのは「外壁の張り替え・塗装」(29.5%)で、「キッチンまわり」(29.2%)、「ユニットバスまわり」(24.3%)、「洗面所」(21.9%)などが続いた。

【図1】2025年に行ったリフォームTOP10(複数回答)

1位	トイレ	40.5	順位 上昇
2位	外壁の張り替え・塗装	29.5	
3位	キッチンまわり	29.2	
4位	ユニットバスまわり	24.3	
5位	洗面所	21.9	
6位	壁紙・クロス・張りの張り替え	21.5	
7位	屋根の葺き替え・塗装	20.2	スコア 上昇
8位	サッシ・窓の交換 (二重サッシ、断熱窓、内窓等)	18.5	
9位	玄関ドア・玄関まわり・勝手口の改修	12.6	
10位	ドア・建具の交換	11.8	
		2025年にリフォームした人 (n=1,165)	(%)